

Note  
自然誌資料

1896年に採集された大阪府産のマツナの標本を見いだす

横川昌史<sup>1</sup>

Discovery a specimen of *Suaeda glauca* (Bunge) Bunge collected  
from Osaka Prefecture, Japan in 1896

Masashi YOKOGAWA<sup>1</sup>

**Abstract:** Although the distribution records of the coastal plant *Suaeda glauca* (Bunge) Bunge in Osaka Prefecture has been unclear, I discovered a specimen of *S. glauca* collected at Tannowa, Misaki-cho, Osaka Prefecture, Japan in 1896 (Meiji 29) by Sadahisa Matsuda in the Herbarium, National Museum of Nature and Science (TNS). This report summarizes the details of this specimen as well as the transition of the distribution records of *S. glauca* in Osaka Prefecture.

**抄録:** 海岸植物のマツナ *Suaeda glauca* (Bunge) Bunge の大阪府における確実な分布記録はこれまで知られていなかったが、国立科学博物館植物標本室 (TNS) において明治29年 (1896年) に大阪府泉南郡岬町淡輪で松田定久によって採集されたマツナの標本を見いだした。この標本の詳細と合わせて、大阪府におけるマツナの分布記録の変遷についてまとめて報告した。

**Key words:** herbarium; local flora; coastal plants; Amaranthaceae

マツナ *Suaeda glauca* (Bunge) Bunge は海岸に生えるヒユ科の一年草である。日本国内での標本記録は多くはなく、比較的珍しい植物である (図1)。大阪府においては、後述するようにマツナが生育するという古い文献記録はあるものの、確実な標本記録が確認されていなかった。今回、国立科学博物館の植物標本室 (TNS) において、*Suaeda* 属の標本調査を行っていた際に、明治29年 (1896年) に松田定久によって和泉泉南郡淡輪 (現大阪府泉南郡岬町淡輪) で採集されたマツナの標本を見いだした (図2)。現状、この標本が大阪府の唯一のマツナの確実な分布記録である。本報告では、過去の大阪府産のマツナの文献記録や標本記録を整理した上で、今回見いだした標本とその履歴についてまとめておく。

### 大阪府のマツナの文献記録および標本記録

大阪府の主要な植物誌の *Suaeda* マツナ属の記載を確認してみると、1938年発行の大阪府植物誌 (田代・堀 1938) には、石津海岸のハママツナ *S. maritima* Dum. のみ記載されており、マツナは載っていない。1962年発行の大阪府植物誌 (堀 1962) の「IX 目録」には、ハママツナの記載はなく、平林町のマツナ *S. asparagoides* (Miq.) Makino が記載されている。さらに、同植物誌の「IV 各地域の植物案内」の「中部地域の砂浜植物」の項の中に樽井海岸のマツナとされる写真が掲載されている。1990年発行の大阪府植物目録 (桑島 1990) には、泉南市榎井川口・男里川口のハママツナ *S. maritima* (L.) Dumort. と大阪南港のマツナ *S. asparagoides* (Miq.) Makino が記載されている。この目録の凡例には『収録した植物は、原則として標本にもとづき、標本のないものは収録しなかった。』と書かれている。1958年10月12日に日浦勇が大阪市住吉区南港海岸で採集したマツナと同定された標本が、京都大学植物標本室 (KYO) と大阪市立自然史博物館植物標本室 (OSA) に入っ

※大阪市立自然史博物館業績第514号 (2023年1月13日受理)  
大阪市立自然史博物館 〒546-0034 大阪府大阪市東住吉区長居公園1-23  
Osaka Museum of Natural History, 1-23 Nagai-Park, Higashiumiyoshi-ku, Osaka 546-0034, Japan  
Corresponding author: M. Yokogawa (e-mail: yokogawa@omnh.jp)

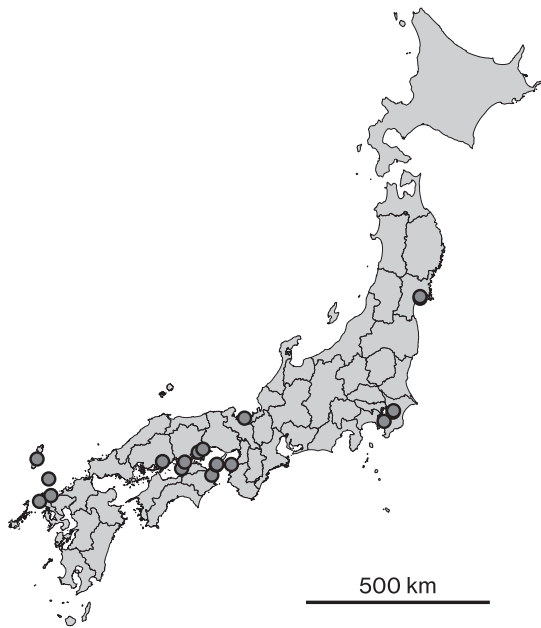


Fig. 1 Distribution map of *Suaeda glauca* (Bunge) Bunge based on specimen labels collected in Japan from TNS, TI, KYO, and OSA. Note that the point locations shown are arbitrarily representative of the place names on the specimen labels and do not represent exact collection sites. *S. glauca* in Mie Prefecture is not shown in the map because it is suspected to have been introduced from farming pools of *Meretrix petechialis* (Pelecypoda) (Fujii & Mizuno 2009).

図1. 筆者がこれまでに確認した日本産マツナ *Suaeda glauca* (Bunge) Bunge の標本採集地. TNS・TI・KYO・OSA の標本に基づく. 示した点の位置は標本ラベルに書かれた地名の任意の代表地点であり, 厳密な採集地点を示していないことに注意. 三重県の伊勢湾沿岸のマツナについてはシナハマグリ畜養由来の移入が疑われるため (藤井・水野 2009), 地図には示していない.

ており, 桑島 (1990) の目録はこれらの標本を参照したと思われる. しかしながら, これら大阪府産のマツナとされる標本は後年, 再検討されており, KYOの標本は1996年にSteven Clemants によってハマナツナ *S. maritima* (L.) Dumort. に, OSAの標本は1998年に藤井伸二によってハマナツナ *S. maritima* (L.) Dumort. に再同定されている. どちらのアノテーションラベルにも再同定の根拠は書かれていないが, 筆者がこれらの標本の形態を確認したところ, 花は常に葉腋についていることからマツナではなく, 葉は細かったことからハマナツナと同定できた. また, 藤井・レッドデータブック近畿研究会 (2006) には, 大阪府のマツナの記録に関して『…南港の記録はハママツナを誤同定したもの.』というメモが掲載されているが, 上記の標本を確認した上でのメモだと思われる. これらの標本の再同定を受けてだと思われるが, 桑島 (1990) を引用して作られた大阪府野生生物目録 (大阪府 2000) にはマツナは掲載されていない.

その他, 大阪府産のマツナについての記載がある2つの文献についてまとめておく. 牧 (1939) は1933年と1934年の7-8月に住之江の大和川河口から尾崎の尾崎浜にかけて海浜植物の踏査を行っている. この報告では大阪府の各地の海辺の海岸植物の生育状況が詳細に報告されているが, 本文中にはマツナは記載されていない. 一方, 添付の表にはマツナが記載されており, 文末の大阪湾海濱植物目録にもマツナ *S. glauca* Bunge が記載されている. 著者の牧牛尾はこの研究の中で標本を採集し, 大阪府池田師範学校教諭の堀勝に鑑定を依頼したようだが, 今のところ筆者は牧牛尾が採集した標本を見つけれられていない. 杉野ほか (1974) は1973年7月8日と1974年7月14日に調査した男里川河口周辺の植物相について報告している. その中で, 男里川河口を除く樽井海岸のマツナを記録しているが, これについては『近年見当たらないことから極く最近絶滅したと思われる』としている. 同文献の中では, 男里川河口近くにマツナを記録しており, 『(男里川) 右岸下の塵芥の門に繁茂するマツナの群落』という表題の写真を掲載している.

以上のように, 大阪府産のマツナについてはいくつか文献での記述があるものの, 確かな標本記録は確認されていなかった. 樽井海岸 (堀 1962) と男里川河口 (杉野ほか 1974) のマツナとされる写真がそれぞれの文献に掲載されているが, これらの写真ではマツナの同定に必要な花や花柄の状態が確認できず, 同定の根拠も示されていないことから, 確かな分布記録とは言い難い. 男里川河口周辺ではハママツナの記録があることから (桑島 1990; 楠瀬ほか 2016), これらの文献で報告されている男里川河口周辺のマツナはハママツナの誤同定の可能性もある. マツナは標本記録が少なく, しばしば再同定されている植物であることから, 種名だけの記録については確かな記録とするのは難しい. 以上のことから, 標本・文献ともに, 大阪府産のマツナの確かな記録と言えるものはこれまで知られていなかったと言える.



図2. 松田定久が明治29年（1896年）に和泉泉南郡淡輪で採集したマツナの標本。TNS所蔵。①標本の全体像、②標本ラベル、③花の拡大写真。

Fig. 2 The specimen of *Suaeda glauca* (Bunge) Bunge collected by Sadahisa Matsuda at Tannowa, Sennan-gun, Izumi in 1896 (Meiji 29), in the collection of TNS. (1) Overall view of specimen, (2) specimen label, (3) enlarged photo of flower.

### 松田定久が明治29年に採集した大阪府淡輪産のマツナの標本

2021年10月25日にTNSにおいて、*Suaeda* 属の標本調査をしている際に、松田定久が明治29年（1896年）8月5日に和泉泉南郡淡輪で採集したマツナ *S. glauca* Bunge と同定されている標本を見つけた（図2）。この標本はまだ花が咲き始めて十分成熟したものではないが、花は葉腋につかず葉の途中についていること、花の基部に膜質の苞が確認できることからマツナであると同定できた（図2-③）。ラベルの採集地は現在の大阪府泉南郡岬町淡輪であることから、この標本が大阪府唯一の確かなマツナの記録だと言える。

この標本の採集者である松田定久は安政4年（1857年）に江戸で生まれ、明治24年（1891年）に帝国大学選科を卒業した後、各地で教諭の職に就き、明治32年（1899年）に東京帝国大学植物学教室に着任し、標本整理に携わった植物学者である（矢部 1921）。明治28年（1895年）には大阪府堺の府立中学教諭として着任し、大阪滞在中の明治28年（1895年）から明治30年（1897年）にかけて泉州で植物相調査をしており、その詳細は和泉植物採集雑記にまとめられている（松田 1915a; 松田 1915b）。この報文によると、松田は堺の大浜・石津・浜寺、淡輪、谷川付近、小島の海岸で調査を行っている（松田 1915b）。採集した植物のリストの中にマツナも記載されており、今回見いだした標本はこのときの証拠標本だと思われる。

松田定久が採集した標本のラベルは帝室博物館のものであり（図2-②）、同じ書式・筆跡のラベルが貼られた標本はTNSに多く配架されている。国立科学博物館所蔵の帝室博物館からの標本受入台帳を確認したところ、「番号：32544、品目：ハママツナ *Suaeda*、所属：アカザ科、産地：和泉泉南郡淡輪、採集時：明治二十九年八月五日、備考：大正八年五月廿六日 根本莞爾ヨリ寄贈」との記録があった。標本番号や産地、採集日が一致することから松田定久が採集したマツナの標本は確かに帝室博物館から寄贈されたものと思われる。このマツナの標本のラベルは元々ハママツナ *S. maritima* (L.) Dumort. と同定されていたが、マツナ *S.*

*glauca* Bunge に再同定されている (図2-②). 受入台帳の記載はハママツナであることから, TNSに寄贈後にマツナへ同定が訂正されたようだが, 訂正はラベルに直接ペン書きされており, 同定者の名前や同定日の記述はないためその詳細な経緯はわからない. 松田 (1915b) では, ハママツナではなくマツナと記載されているが, 松田が報文をまとめる際に標本を参照し, 同定を改めた可能性も考えられる.

### 今回見いだしたマツナの標本の植物誌上の位置づけ

上述したように大阪府におけるマツナの分布記録は長らく曖昧なものであり, 確かな証拠は得られていなかった. 今回, 松田定久が1896年に淡輪で採集したマツナの標本が見出されたことで, 大阪府にマツナが生育していたことがほぼ確実となった. 今後, 大阪府の植物目録が改訂される際にはマツナを掲載する必要がある. また, 今回見いだした標本以降, 100年以上に渡って確実なマツナの記録は存在しないため, 大阪府レッドリスト改訂の際には「絶滅」として扱うのが妥当であると考えられる.

一方, マツナは珍しい植物ではあるが, 瀬戸内海沿岸の特に東部では比較的良好に標本が採られている (図1). 大阪府では, 沿岸部の埋め立て等が進む前には海岸植物の標本が多く採集され, OSAを中心に, TNS, KYO, 東京大学植物標本室 (TI), きしわだ自然資料館などに収蔵されている. それにも関わらず, 大阪府産のマツナの標本は松田定久が採集した1点しか見つかっていない. マツナは砂浜または礫浜の高潮線に沿って点々と生育する (中西 2001) という報告もあることから, 松田定久が採集したマツナは漂着種子から芽生えた一時的に生育していた個体を採集したもので, 偶産だったという可能性もあるだろう.

### 松田定久コレクションの意義

松田 (1915b) の大阪府植物採集雑記の末尾に『採集品ハ別ニ目録アリ凡九百餘種ヲ得』とあるが, 今のところ筆者はその目録を見つけていない. また, 松田 (1915a; 1915b) の証拠標本と思われる標本の一部は, TNS (帝室博物館のラベルのもの) とTIで見つけているが, 900余りの採集品すべてが残っているのかどうかはよくわからない. KYOにも松田定久の標本が多数寄贈されている (北村 1990) が, 筆者はKYOで標本調査している際に松田定久が採った明治時代の大阪産の標本は見えていない. 大阪府産の植物標本が多数収蔵されているOSAの標本の多くは1930年代以降に採集されたものであり, 明治時代まで遡れる大阪府産の標本は非常に貴重である. 松田定久の採集品は, 大阪府の植物誌研究を進める上で非常に重要だと考えられ, 今後, 詳細の解明が待たれる.

### 謝辞

国立科学博物館の海老原淳さん, 京都大学の永益英敏さん, きしわだ自然資料館の岡本素治さんには標本閲覧でお世話になった. さらに海老原淳さんには帝室博物館からの標本受入台帳の閲覧をさせていただいた. 人間環境大学の藤井伸二さんには大阪府産のマツナの記録について様々なご教示をいただいた. 大阪市立自然史博物館動物研究室の石田惣さんには文献についてご教示いただいた. 久米修さん, 藤本博文さんには四国で真木弥太郎が採集したマツナの標本ラベルの判読について, 真木弥太郎の行動圏などを中心に重要なコメントをいただいた. また, 真木弥太郎採集の標本ラベルの判読について, SNS上で多くのアカウントから様々な推察や情報を寄せていただき, 考察の一助とした. 以上の方々に厚くお礼申し上げる. この研究の一部はJSPS科研費18H03415によって行われた.

### 調査した標本 Specimens examined

#### *Suaeda glauca* (Bunge) Bunge マツナ

宮城県: 桃生郡野蒜海岸, 28 Aug. 1947, 萩庭丈壽 JH041152, TNS 991152; 桃生郡鳴瀬町宮戸島, 19 Aug. 1973, T. Naito s.n., KYO; 千葉県: 富津海岸, 23 Aug. 1949, 浅野貞夫 308564, TNS; 富津町, 30 Sep. 1953, 浅野貞夫 115885, TNS; 富津市青木, 3 Sep. 1977, 佐橋紀男 s.n., TNS01299688, 八幡宿海岸, 17 Oct. 1957, 萩庭丈壽 JH003144, TNS 953144; 千葉市蘇我海岸, 1 Jul. 1951, 萩庭丈壽 JH041153, TNS 991153; 福井県: 若狭高浜町和

田, \*\* Aug. 1955, 堀芳孝 *s.n.*, TNS 130453; 三重県: \*\*<sup>1</sup> 桑名市福岡町揖斐川右岸堤外湿地, 14 Nov. 2012, 市川正人 12962, OSA293795; 四日市市楠町南五味塚~鈴鹿市長太新町, 13 Aug. 2010, 市川正人 11945, OSA294207; 鈴鹿市長太新町~楠町南五味塚 長太浜, 9 Sep. 2006, 藤井伸二 12055, KYO/OSA303822; 鈴鹿市長太新町~楠町南五味塚 長太浜, 4 Nov. 2006, 藤井伸二 12323, KYO/OSA238601; 鈴鹿市長太新町 長太浜, 2 Sep. 2006, 藤井伸二 12037, OSA303823; 伊勢市東豊浜町 宮川左岸河口, 3 Oct. 2004, 藤井伸二 10376, KYO/TNS01138613/OSA238225/OSA303814; 伊勢市東豊浜町 外城田川右岸河口, 3 Oct. 2004, 藤井伸二 10382, KYO/TNS01138614/OSA238336/OSA303815; 伊勢市東豊浜町 宮川河口と城田川河口に挟まれた砂洲, 7 Oct. 2005, 藤井伸二 11336, KYO/TNS01135546/OSA303818/OSA303825; 伊勢市東豊浜町 外城田川右岸河口, 2 Sep. 2006, 藤井伸二 12039, KYO/OSA303824; 伊勢市二見町今一色 五十鈴川河口右岸, 10 Sep. 2006, 藤井伸二 12064, KYO/OSA238517; 伊勢市二見町今一色, 29 Sep. 2006, 藤井伸二 12174, KYO/OSA238473; 伊勢市大湊町 五十鈴川河口左岸, 15 Oct. 2007, 藤井伸二 13021, KYO/TNS01138650/OSA303817; 伊勢市有滝町 外城田川河口左岸, 15 Oct. 2007, 藤井伸二 13023, KYO/TNS01138649/OSA303816; 伊勢市有滝町 外城田川河口左岸, 20 Nov. 2009, 藤井伸二 14301, TNS01135432/OSA238774; 伊勢市東豊浜町 外城田川河口右岸 (sterile), 1 Aug. 2006, 藤井伸二 11891, OSA303820-303821; 伊勢市二見町今一色 (sterile), 1 Aug. 2006, 藤井伸二 11884, KYO/OSA303819; 鳥羽市桃取町桃取, 4 Sep. 2017, 山脇和也 21381-21383, OSA274776-274778; 大阪府: 淡輪, 5 Aug. 1896, 松田定久 *s.n.*, TNS32544; 兵庫県: 三原郡西淡町湊, 25 Oct. 1998, Shinya Miyake 6547, KYO; 三原郡西淡町湊, 26 Oct. 1998, 小林禱樹 32465, KYO/TNS674869; 三原郡西淡町湊, 26 Oct. 1998, 丸井英幹 2954, TNS; 三原郡西淡町湊, 26 Oct. 1998, 梅原徹 7849\_1-2, OSA145044-45; 三原郡西淡町湊, 26 Oct. 1998, 梅原徹 7848, OSA145046; 南あわじ市湊, 1 Feb. 2007, 黒崎史平 25083, TNS01171766; 三原郡西淡町湊, 30 Oct. 2008, 小林禱樹 44927, KYO; 三原郡西淡町登立, 11 Jul. 1999, 小林禱樹 33104, KYO; 三原郡西淡町登立-湊, 11 Jul. 1999, 小林禱樹 33095, TNS700603; 岡山県: 邑久郡牛窓町塩田跡, 8 Nov. 1979, 村田源 38877, KYO; 邑久郡邑久町錦海塩田跡, 14 Oct. 1996, 村田源 72163, KYO/TNS661514; 邑久郡邑久町錦海塩田跡, 14 Oct. 1996, 梅原徹 7361, OSA 121095-121098; 岡山県, \*\* Oct. 1911, 牧野富太郎 41417, KYO; 備前 鹿久居島, \*\* Oct. 1939, 加藤弥栄 *s.n.*, KYO; 広島県: 備後? 三原, \*\* \*\* \*\*\*, 採集者不明, KYO; 徳島県: 阿波名東郡沖ノ洲濱, 18 Sep. 1913, 二階重楼 *s.n.*, TI & TNS 48709; 香川県: 詫間, 3 Dec. 1927, 田代善太郎 *s.n.*, TNS 36727; 丸亀市本島町大浦, 1 Nov. 2007, 新居正敏 3359, KYO; 四国塩●塩田跡, 28 Oct. 1972, 真木弥太郎 10, KYO \*\*<sup>2</sup>; 佐賀県: 東松浦郡肥前町星賀, 23 Aug. 1961, 馬場胤義 98, KYO; 長崎県: 対馬, \*\* \*\* \* 1910, Tomoichiro Hara *s.n.*, KYO; 平戸島, \*\* Aug. 1951, 橋本保, TI; その他: 備中, 16 Aug. 1931, 横溝熊市 *s.n.*, TI; 中国地方, \*\* \*\* \* 1903, 牧野富太郎 41418, KYO;

きしわだ自然資料館の標本室も調査したがマツナの標本はなかった。

### *Suaeda maritima* (L.) Dumort. ハママツナ

大阪府: 大阪市住吉区南港海岸, 12 Oct. 1958, 日浦勇 *s.n.*, KYO & OSA322978-322979 \*\*<sup>3</sup>;

\*<sup>1</sup> 三重県の伊勢湾沿岸のマツナについては、藤井・水野 (2009) によってシナハマグリ畜養由来の移入が疑われている。

\*<sup>2</sup> 真木弥太郎が1972年に「四国塩●塩田跡」で採集した標本について、●は「出」もしくは「生」と読める字であった。採集者の真木弥太郎は当時、観音寺第一高校で教鞭を取っており、日々の調査は自転車移動が主で、旧観音寺市を中心に、旧大野原町、旧豊浜町、旧仁尾町、旧詫間町が行動圏だったという(久米私信)。旧詫間町詫間には、「塩生」(はぶ)という地名があり、塩生のすぐ南東には1960年代に塩田が広がっていた。採集者の行動圏とかつての塩田の分布から、この標本の採取地は香川県の旧詫間町の塩生の塩田跡だと推測した。

\*<sup>3</sup> 現在、南港は大阪市住之江区であるが、住之江区が住吉区から分離して発足するのが1974年であるため、1958年に採集されたこの標本ラベルの採集地名は間違いではない。

## 引用文献

- 藤井伸二・レッドデータブック近畿研究会 2006. 近畿地方の植物分布に関する最近の知見と文献一覧. 分類 6(2):139-150.
- 藤井伸二・水野知巳 2009. 移入と思われる伊勢湾のマツナ (アカザ科). 植物研究雑誌 84:50-54.
- 堀 勝 1962. 大阪府植物誌. 大阪府植物誌刊行会, 大阪, 421pp.
- 北村四郎 1990. 北村四郎選集Ⅳ 花の研究史. 保育者, 大阪, 671pp.
- 楠瀬雄三・長谷川匡弘・村上健太郎 2016. 大阪府におけるハママツナの分布状況. きしわだ自然資料館研究報告 4:53-55.
- 桑島正二 1990. 大阪府植物目録. 近畿植物同好会, 柏原, 197pp.
- 牧牛尾 1939. 大阪湾海浜植物の踏査. 吉田博士祝賀記念誌 論文編 1:1117-1128.
- 松田定久 1915a. 和泉植物採集雑記. 植物学雑誌 29(341):195-198.
- 松田定久 1915b. 和泉植物採集雑記 (承前). 植物学雑誌 29(342):209-214.
- 中西弘樹 2001. ヒロハマツナ群落の植物社会学的研究および九州西部におけるマツナ属の分布. 植生学会誌 18:19-106.
- 大阪府 2000. 大阪府野生生物目録. 大阪府, 大阪, 351pp.
- 杉野久雄・中西定雄・里中長治 1974. 泉南の自然(2). Nature Study 20(9):5-6.
- 田代善太郎・堀勝 1938. 大阪府植物誌. 大阪府池田師範学校, 池田, 289pp.
- 矢部吉禎 1921. 松田定久君ヲ悼ム. 植物研究雑誌 35:164-165.